

今年も「変革の四月」が到来!

本文でも「変革の四月」を書いています。これは就職した会社の上司(十河専務)が2年目になる際に「栩野君、この1年で変わった事は何か?」と問われた事から始まりました。過去を振り返り、次を展望する習慣を身に付けました。感謝! 栩野

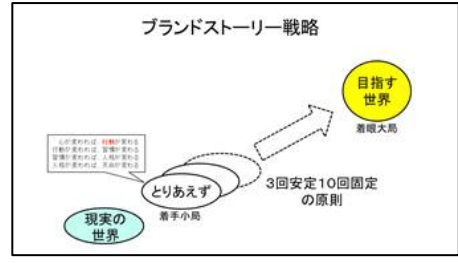
MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「変革の四月」; 貴社は何かに着手していますか?

右掲は若者が書物からヒントを閃いたイラストです。誰も他者からの情報で閃く事がありますが、それをどのように展開するかがポイントです。「着眼大局、着手小局」と言いますが、閃いた段階では輪郭が見えた状態で、塗り絵のように詰めて行かないと完成しないものです。「着眼大局」は塗り絵の輪郭、「着手小局」は細かく色を塗っていく作業と大別できます。輪郭が見えれば、根気よく試行錯誤しながら完成に向かう事が可能なので「閃き」は重要です。



しかしながら、状況によっては即着手とは行かない事があり、大部分は忙しさの中で埋没して忘れることになりがちです。このようにならない為には「To-Do」としてメモしておく事がポイントです。「To-Do」が多くなると優先順位を付けて「Must-Do」を選ぶ事になります。私の場合、毎年、「Must-Do」を「今年、発生した課題」として記録します。「To-Do」は実行するだけで済む事が多いので、順次、実行して解消するようにして、その間に「Must-Do」の展開方法を練っておきます。右図はブランドストーリー戦略としていますが同じ構図です。「とりあえず」という事から着手して、そのポイント(コツ)を掴む事が重要です。「3回安定10回固定」と言いますが、3回連続して試行するとコツが見えて来ます。



このような方法で「To-Do」を処理しながら「Must-Do」を追いかけるようにしていますが、毎年、年度末に「Must-Do」を棚卸して、解決した課題、継続中の課題と新規に発生した課題の一覧表を作成して総括しています。そして、

「雑事優先」で課題を後回しにしない

発生した課題の中から優先順位を付けて「変革の4月」を迎えるようにしています。今年の「変革の4月」の大きな課題は「100%復帰」です。昨年10月に大動脈瘤の手術を受け、11月から養生しながらリハビリを行ない元の生活スタイルに戻るよう努めて来ましたが、医学的には3月に執刀した大阪警察病院の外来で定期検査を受け、次回から地元の病院で管理するようになっていました。つまり、医学的に手術は100%回復であり、この状態を維持する為に地元で経過観察して投薬を受ける事になっています。

しかしながら、「100%復帰」というのは意外に難しいのです。特に、難しいのは「前向き」になる事です。「雑事優先」と言いますが、雑事を後回しにする癖が付いているのです。雑事が発生したら即処理が基本にして来ましたが、養生中に「あとで・・・」という癖がついてしまったのです。一旦、身に付いた癖を解消するのは意外に困難です。「雑事優先」を実践できるか否かは、体調が良くないか否かのバロメーターになり私の判断基準にしています。

次は「もう少し・・・」という粘りです。例えば、街ジムで遠回りして帰宅するようになっていますが、あの街角まで行こうという気力です。今まで、体力的に負荷を掛け過ぎないようにして来たので「もう少し・・・」は禁句でしたが、「100%復帰」には前向きに「もう少し・・・」とチャレンジする事が必須になっています。

個人的な「変革の4月」をご紹介しますが、これを参考にして皆様の行動変革になれば最幸です。ポイントは「閃き」をメモする事から始める事です。そして、よいタイミングで棚卸して「自己肯定」しながら、残る課題に着手するように「できる事」をブレイクダウンして弾みをつける事で「3回安定10回固定」の大原則に従って課題を達成するようにする事です。「着眼大局、着手小局」の言葉通りに行きましょう。

ワンポイント・アドバイス

何事も「雑事優先」で処理しないと山積みになるばかり、そして、忘れてしまいクレームになる事も出て来る。記憶のバスタブ曲線という言葉がありますが、2日経過すると大抵の事を忘れるのです。これを防止するには即着手です。何かを着手すると記憶に残るが、何もしないとすぐに忘れるのです。場合によっては他人に依頼するのも一案。これもすぐに依頼!

